

論 説「学校歯科検診からはじまる健康づくり」



広島市学校保健会
副会長 川原 正 照

今春、学校における健康診断が大きく変更されます。これは平成23年に文部科学省が日本学校保健会に委託して実施した「今後の健康診断の在り方に関する調査」にはじまる一連の膨大な作業の成果として実現されるものです。マスコミの報道では座高、寄生虫卵の検査の削除、四肢の状態の検査の必須項目化などに注目が集まっているようですが、歯科についても大小様々な改正が行われます。

学校における健康診断には二つの大きな役割があります。一つは学校生活を支障なく送るための疾病のスクリーニング。もう一つは検診結果を利用した健康教育により子どもの健康づくりを行うことです。歯科における前者との関連では、今回、C0(要観察歯)の検出基準の見直しが行われました。C0というのはエナメル質に白濁や褐色の着色などのう蝕の初期病変を有する歯のことで、これに対する事後措置は“学校での保健教育、健康相談等を前提とし、場合によっては地域の歯科医療機関との連携を行う”とされています。広島県においては平成16年より全国に先駆けて連携に重点をおいた事後措置を行ってきた結果、12歳児DMFT指数(永久歯のむし歯の度合いを表す数値)が全国平均の1.0に対し広島県においては0.68(広島市は0.62)と報告(平成26年度 学校歯科健康診断結果)されており、極めて効果的な事後措置が行われてきたことがわかります。今回の改正ではC0に関して、よりきめ細やかに実態を把握するために、「C0要相談」という概念が導入されました。これにより学校関係者にとってはC0の状態の把握が容易になり保健教育の参考になるとともに、地域の歯科医療機関との連携も行いやすくなるものと期待されています。

社会的にも重要性が増している後者の役割については、今回の改正でさらなる取り組みの強化を目指しています。口腔内は子ども自身が疾病を確認しセルフケアによる改善の過程を実感しやすいことなどから、保健教育の学習材料として適当であるという特徴があります。そこで、学校歯科検診を子どもが全身の健康について考える機会とし、将来の生活習慣病の予防につなげようという取り組みが全国で進められています。

実は、このように口腔の健康を全身の健康につなげようとする考え方は最近の世界的な潮流でもあります。昨年、東京で「世界会議 2015—健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健—」が日本歯科医師会とWHOの共催で開催されました。24の国と地域から約1,800人が参加したこの会議は最終日に「東京宣言」を採択して終了しましたが、それに示された指針の一つに「口腔疾患とNCDsの共通リスクを認識し、口腔疾患の予防と歯の喪失防止、口腔機能の維持、回復を図るための政策をライフコースアプローチとして推進する」というものがあります。NCDs(Noncommunicable Diseases)は、いわゆる生活習慣病をさしますが、NCDsと口腔疾患は多くのリスク因子を共有しているため、歯科におけるリスクアプローチがNCDsの対策としても重要であると考えられているのです。

保健教育における役割は生活習慣病予防だけではありません。広島市歯科医師会は広島大学病院障害者歯科(岡田 貢教授)のご協力を得て、平成25年より3年間、広島市立広島特別支援学校において『特別支援学校におけるTEACCHプログラムを応用したオーダーメイドの口腔清掃法指導システムの構築』という事業(8020推進財団歯科保健事業助成交付事業)に取り組み、その成果については同校の上田裕次学校歯科医と木村真規子養護教諭が「第23回広島県学校歯科保健研究大会」で発表を行いました。学校歯科検診などから把握した同校の歯科的特徴を踏まえて児童・生徒に対して口腔清掃法の指導を行い、その結果、口腔内の清掃状態や歯肉炎は有意に改善されたのですが、それだけではなく当初は恐怖心が強く受診が困難だった生徒が指導を重ねる毎に落ち着きを見せ、自発的な歯みがき習慣が定着するなど、「生きる力」が育まれる様子が随所で観察されたのです。また、理解が深まるにつれて保護者や教師の積極性もさらに高まり、歯科医師・歯科衛生士も含めた「チーム」としての一体感が生じました。こういう変化にこそ、この取り組みの本質的な成果が存在するように思われるのです。

今回の改正の「理念」とも言える「今後の健康診断の在り方等に関する意見」という文書を文部科学省はインターネット上に公表しています。「例えば、歯科保健に重点的に取り組むことで、子供や保護者の健康全体への関心が高まったという事例もあり、そのような取組を通して、子供や保護者の健康への意欲を高めていくことも大事である」という文で結ばれるこの文書を一読すると、健康教育において歯科がこれまで果たしてきた役割がいかに高く評価され、今後にも期待を寄せられているかがわかります。広島市学校保健会及び歯科医師会はこれからも皆様からの付託に応えるべく、学校歯科医への情報提供、検診時の感染症対策やプライバシー保護、保健調査情報の有効活用の促進など、学校歯科検診実施体制の充実にさらに取り組むことにしています。

